

棚底城跡周辺の文化財

棚底地区には、棚底城跡の外にも様々な文化財が残っています。特に集落内に数多く見られる防風石垣は、棚底地区独特の文化財として注目されています。



棚底城跡の菩提寺跡と言われ、南北朝時代から戦国時代までの石塔群が残っています。石塔部材数は天草最多を誇ります。



棚底集落の家々の周囲を取り囲む防風石垣で、独特的な集落景観を生み出しています。100箇所ほどが現存しています(下地図赤線部)。

弥生時代末～古墳時代初期にかけての箱式石棺墓が丘陵上に22基ほど残っています。海の民の墓地と考えられています。



見学に際して

- 史跡周辺は公共交通機関が整備されていません。お車でのご来訪が便利です。
- ゴミはお持ち帰りください。
- 城跡は未整備です。足元に気をつけて見学してください。
- 史跡の現状を無断で変更する行為は法律により禁じられています。

【発行・お問い合わせ先】

天草市役所観光文化部 文化課

〒863-0048 熊本県天草市中村町10-8-1

TEL 0969-32-6784 FAX 0969-23-5312

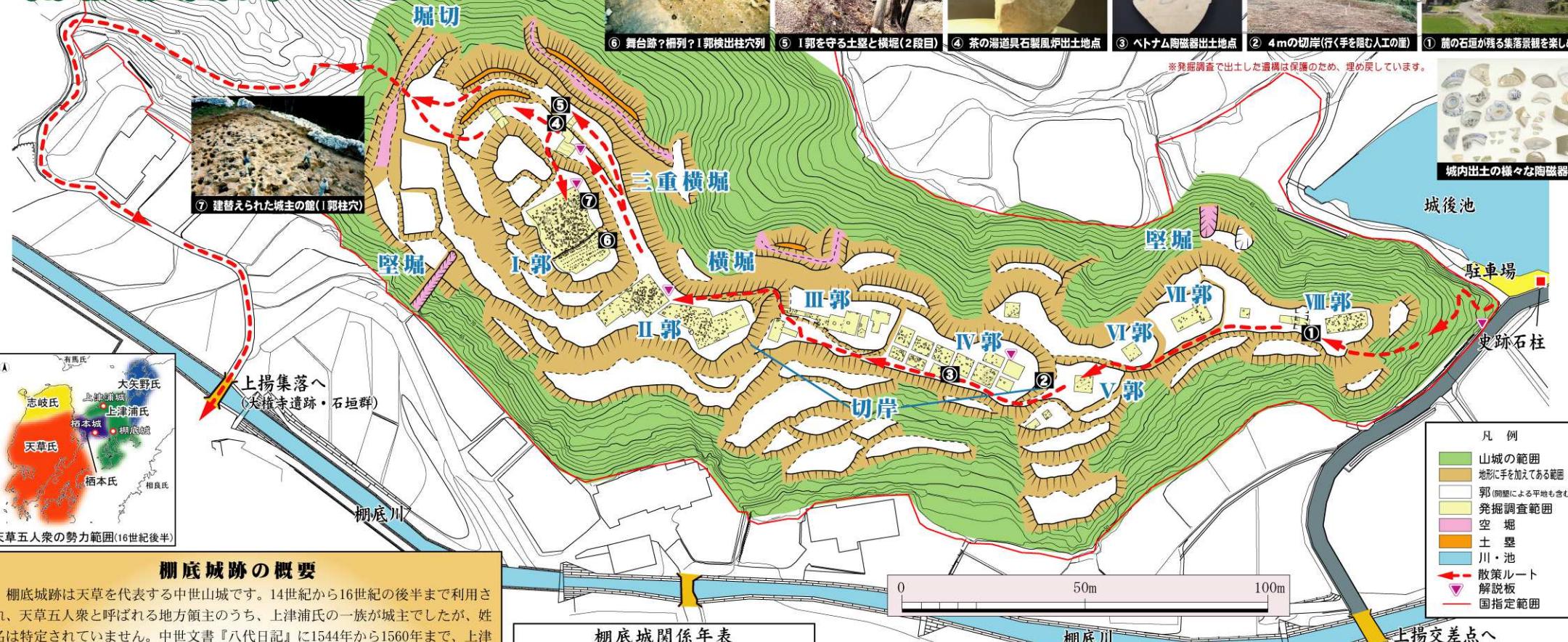
天草市ホームページ <http://www.city.amakusa.kumamoto.jp/>

2013年8月30日改訂

国指定史跡 棚底城跡



棚底城跡散策マップ



棚底城跡の概要

棚底城跡は天草を代表する中世山城です。14世紀から16世紀の後半まで利用され、天草五人衆と呼ばれる地方領主のうち、上津浦氏の一族が城主でしたが、姓名は特定されていません。中世文書『八代日記』に1544年から1560年まで、上津浦氏と栖本氏が城をめぐって戦いを繰り返したことが記されています。

城は東西約340mの規模で、標高約90mのI郭から東へVII郭まで曲輪が連続します。I郭北には三重の堀と土塁が残り、数ある天草の山城でも最も重厚な縄張りを誇る城です。

発掘調査によって、各曲輪で掘立柱建物跡と考えられる柱穴が検出されました。通常、中世の山城跡は戦いの時に限って利用されるため、検出される柱穴は簡素な建物に過ぎない場合が多いのですが、棚底城跡のI郭では立派な城主居館が幾度も建替えられ、常時、生活空間として利用されたことが明らかとなりました。そのI郭を守るために構築された横堀と土塁は、三重もの厳重さで造られています。これは天草の他の城郭にはない特徴的な遺構で、九州本土の相良氏から伝わった技術の可能性も指摘されています。

発掘調査では柱穴などの遺構の他に、約2000点の遺物が出土しました。その半数以上に及ぶ約1100点が青磁や青花(染付)など中国産の輸入陶磁器片でした。輸入陶磁器が国産の土器類より数多く出土している城郭は全国的に珍しく、九州の西端で、中国と海を隔ててつながっている天草諸島の城郭らしい調査成果として注目されます。中には希少なベトナム産の青花碗も出土しており、海を往来する人々となんらかの関係があったのかもしれません。他にも、自然石を利用した碁石や天目茶碗・石製風炉などの茶の湯道具類も出土しており、島嶼部の城での豊かな生活ぶりが明らかになりました。棚底城跡は中世天草の歴史を物語る貴重な城郭として平成21年7月に国史跡に指定されました。

棚底城関係年表

延文元年(1356)	大権寺に明後辯尼石塔できる(天草最古の紀年石造物)。
永徳3年(1383)	大権寺に夫婦石塔できる。この頃築城か。
天文元年(1532)	天草・橋本・大矢野・志岐・長島氏が連合で、上津浦城を攻める。相良氏が上津浦氏を援助。
天文13年(1544)	上津浦一族が棚底城から下城する。
天文14年(1545)	大矢野に中国船着く。
弘治2年(1556)	6月 上津浦から棚底を攻め、藤河桟を破る(この頃には橋本氏の城に)。 11月 上津浦から棚底を攻め、「さかたぬき」を破る。5人討ち取り、53人と牛馬30頭生け捕り。
永禄元年(1558)	上津浦から棚底城を攻める。
永禄3年(1560)	2月 上津浦から棚底城を攻める。橋本勢3人討ち取られる。 9月 島原の有馬勢の船200艘、橋本攻めのため天草へ。上津浦・志岐・有馬・大村・松浦氏橋本城を攻める。天草で初めて鉄砲が使用された。 11月 相良氏の仲介で、棚底城は橋本氏から上津浦氏に譲られる。有馬氏ら本拠へ帰る。
永禄9年(1565)	4月 上津浦から橋本を攻め、麦作り追い払う。橋本から棚底へ攻め、麦をオウコ30本追い落とす。
天正7年(1579)	天草五人衆、島津氏へ帰順。城はこの頃廢城か。

棚底城○&A

～ものしり博士に聞いてみよう～



Q. 山城ってなあに？

A. 戦いを有利に運ぶために、山地を利用してつくったお城のことじゃよ。戦国時代の人々は、自然の山に平地をつくり、堀を掘ったりと地形を変える工夫をして、守りやすく攻めにいい城にしていたんじや。天守閣や石垣を持つお城がつくられるようになるのは、もっと後の時代になってからじゃ。



Q. I郭とかII郭の「郭」ってなんのこと？

A. 「郭」は音読みで「かく」と読み、訓読みでは「くるわ」と読むんじや。「曲輪」と書かれることもあるぞ。城を守るために人工的につくった平地のことで、武士がそれぞれの郭で、小屋や柵をつくって生活をしていたんじや。



Q. 発掘調査で何がわかったの？

A. 郭につくられていた建物の柱の穴がいくつも見つかったんじや。それと一緒に、戦国時代の武士が使った茶碗やお皿などのカケラもたくさん出土しているぞ。茶の湯に使われた道具や碁石、ベトナムで焼かれた茶碗など、他の城にはあまり見られない貴重なモノもあって、棚底城での武士の暮らしぶりが発掘調査であきらかにされたんじや。

